



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年12月16日)

## ポイント

▶今回更新されたデータは、民間企業設備、民間在庫品増加、政府最終消費支出、純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。

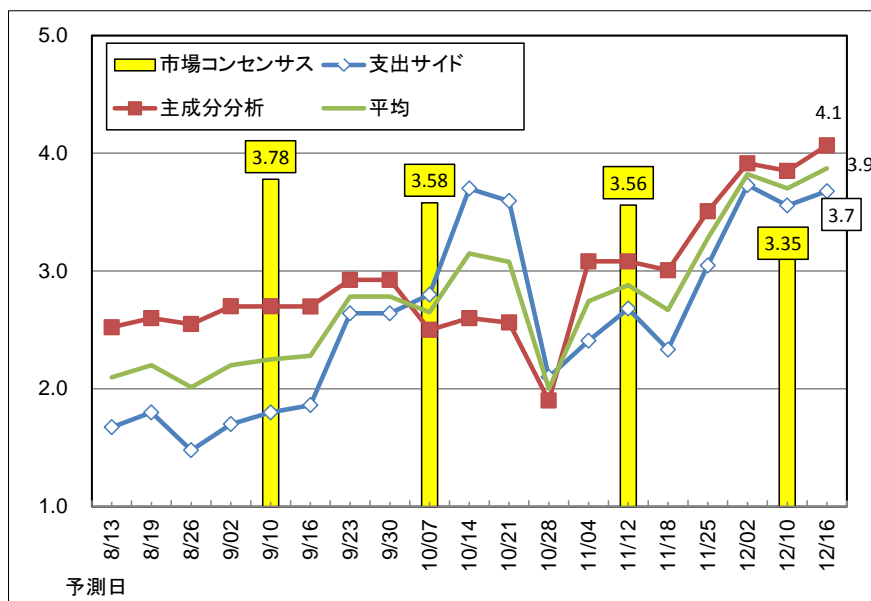
▶10月のコア機械受注は2ヵ月ぶりの前月比プラス、また資本財出荷指数の速報値は速報値を上回った。結果、10-12月期の実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。

▶10月の最終需要財在庫指数(速報値)は速報値を上回ったため、10-12月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から上方修正された。

▶11月の交易条件は11ヵ月連続で悪化した結果、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から幾分下方修正。

▶これらのデータを更新した今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.7%と予測。純輸出は前期比幾分悪化するが内需の寄与は前期から拡大するためである。先週の予測から小幅の上方修正。10-12月期、景気は引き続き着実に回復している。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



### <10-12月期、景気は引き続き着実に回復している>

今回(12/10-12/13)更新されたデータは、11月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、10月の鉱工業指数(速報値)、3次産業活動指数及び民間機械受注である。これらのデータは民間企業設備、民間在庫品増加、政府最終消費支出、純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。

10月のコア機械受注は2ヵ月ぶりの前月比プラスとなり、7-9月平均比+1.0%増加した。実績は予測調査10-12月期見通しを上回っており、機械受注は持ち直しから緩やかな回復に向かっている。また10月の資本財出荷指数の速報値は速報値を上回った。結果、10-12月期の実質民間企業設備の予測値は先週から上方修正された。

10月の最終需要財在庫指数(速報値)は速報値を上回ったため、10-12月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から上方修正された。10月の公務等活動指数は2ヵ月連続の前月比プラス。実績は事前予測を小幅上回ったが、10-12月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から横ばいとなった。

11月の輸出物価指数は前年比+12.4%上昇し、輸入物価指数も同+16.9%上昇した。交易条件指数は11ヵ月連続で悪化した結果、10-12月期の実質純輸出の予測値は先週から幾分下方修正された。

これらのデータを更新した今週(12/16)の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.7%と予測する。純輸出は前期比幾分悪化するが内需の寄与は前期から拡大するためである。先週の実質GDP成長率予測(+3.6%)から小幅の上方修正。10-12月期、景気は引き続き着実に回復している。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690